

本校の取組「平田中授業モデル」の実践 平田中授業モデル

生徒の
実態

- 与えられた課題にはおおむね真面目に取り組む。
- 好奇心旺盛である。
- 自分の意見をすすんで発表することや、自分の思いを相手に的確に伝えたりすることが苦手。
- 基礎的・基本的知識の定着が不十分。

研究主題 意欲的に学ぶ生徒の育成
～知識や技能を活用し、思考力を育てる授業づくり～

授業で身に付けさせたい力

表現力・集中力・学習意欲

「学習意欲を高めることが、集中力・表現力を高めることにつながる」
学力向上の視点＝意欲の向上

★授業における4つの場面づくり

1 今日のねらいを明確にする場面づくり

何を学習するのか、何ができるようになるのか、生徒がわかる。

- 小学校や前学年での既習内容との関連付け
- ねらいを板書し、何をするのか、生徒に教えること

2 生徒が自ら考えようとする場面づくり

- 考えたい課題や発問
- ひとり学びの時間
- ペアやグループでの学習の時間

3 表現する場面づくり

- 生徒の表現したものを価値づけすること
生徒の発言をつなげる・深める

4 今日の学習を振り返る場面づくり

- 自己評価
「わかったこと」「わからなかったこと」
「できたこと」「できなかったこと」を書く

生徒の
学習意欲の向上

学習内容の定着

第3学年 理科学習指導案

指導者 村田 孝友
場 所 第1理科室

1 単元 地球と宇宙

2 単元構成の意図

地球から宇宙へと視点を変換させることで、地球と他の天体との関係に気づかせたい。

3 単元目標

モデルを使って季節の変化を説明する。

4 指導計画（全11時間）

- (1) 太陽や星の1日の動きを知る。（4時間）
- (2) 季節によって星座が移り変わる理由を説明する。（2時間）
- (3) 冬になると日が短くなる理由を明らかにする。（5時間 本時4/5）

5 本時案

(1) 主眼

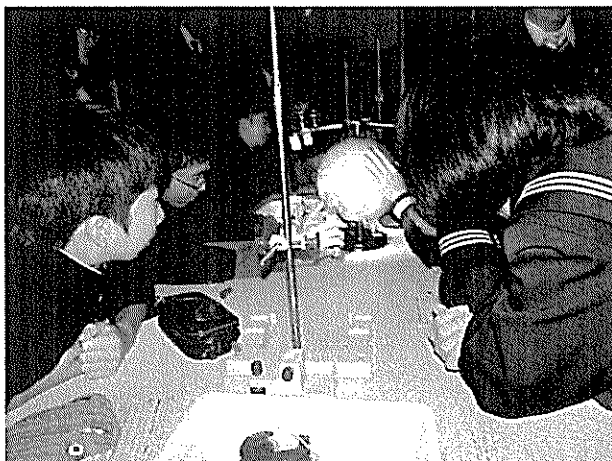
日本とオーストラリアでの太陽の動き方や南中高度をモデルで考えることをとおして、2カ所の季節の違いを説明することができるようになる。

(2) 準備

小透明半球、地球儀、LEDランプ、スタンド、紙紐、プロジェクター、スクリーン、セロハンテープ、学習プリント

(3) 学習の展開

	学習活動 学習内容	生徒の反応	教師の支援
ね ら い 10 分	1 本時は、前時までに学習したことを用いて、日本とオーストラリアでの季節の違いをモデルで考えることを知る。	・ 日本での太陽の動き方や昼夜の時間の長さの違いを調べたことを思い出すだろう。	① 前時に、日本の太陽の動き方や昼夜の時間の長さの違いを調べたことを確認し、小透明半球の使用方法を確認する。

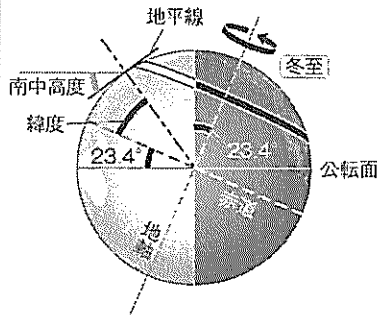


同じ時期に太陽に照らされているのに、日本とオーストラリアで、季節が違うのはなぜだろうか

考えようとする
20分

2 季節の違いをどうすれば説明できるか、ワークシートに自分の考えを書く。
・ 季節の違い

3 オーストラリアの太陽の動きや日照時間を、小透明半球やひもを用いて調べる。
・ 南中高度
・ 日照時間



- ・ 北半球と南半球で、季節が逆になることを知っている生徒もいるだろう。
- ・ 南中高度が関係していることに気づく生徒もいるだろう。

- ・ 同じように太陽に照らされているのに、動き方や南中高度に違いがあることに疑問をもつ生徒もいるだろう。
- ・ オーストラリアでは太陽が北の方角に見えることに興味をもつ生徒もいるだろう。
- ・ 同じ太陽に照らされているのに、太陽の動き方や日照時間が異なることにおもしろさを感じるだろう。

② 発問をした後にワークシートを配布し、各自の意見を書かせた後に、班で確認するように指示する。

③ 日本が冬の位置になるように地球儀がセッティングされているか確認し実験を始めるように指示する。

- ・ 机間観察で、小透明半球の方角や、ライトの高さが正しく設置されているかを確認する。

表現する
15分

4 小透明半球やひも等を用いて、季節の違いを前後の班で説明しあう。
・ 南中高度
・ 日照時間

- ・ 南中高度と太陽から受け取るエネルギーとの関係に気づく生徒もいるだろう。

④ 自分達の考えと比較しながら聞くように指示する。
○ 日本とオーストラリアの季節の違いを、南中高度や太陽の動きから説明することができたか。

振り返る
5分

5 発表についての気づきや振り返りをする。

- ・ 他班の発表のよかった点に気づき、また、考えを深めることができるだろう。

⑤ ワークシートへ、他班のよかった点や、自分たちの班の反省を書くように伝える。

平成25年度 活用力推進事業 授業づくり研修会

実施日 平成25年11月22日(金) 実施校 (岩国市立平田中学校)

「生徒の学習意欲を高める」という研究主題のもと、理科の授業が公開された。

『平田中モデル』を踏まえたすばらしい授業でしたね」という感想を参加者からもたくさん聞くことができた。理科の公開授業、および分科会、全体会の記録を見ながら、この研究会を振り返ってみたい。

1 公開授業 (4教科 理科・国語・数学・英語)

校時	学年・組	教科	授業者
4校時	3年2組	理科	村田孝友 教諭
単元名	天体と地球		
実施内容及び気づき	<p>今回の研究会の目玉となる授業が理科でした。参観者が40名近くあり、生徒を取り囲む状況であった。村田教諭はもちろん、生徒も緊張したことだろう。</p> <p>村田教諭は、「今まで生徒に実験をとおして、話し合わせたり説明させたりすることが乏しかった。生徒たちは、このような学習場面を欲している」という言葉を、指導案を検討する中で話されたことが大変印象的である。</p>		
	<p style="text-align: right;"><教材の工夫：枠のない地球儀></p> <p>今回の授業では、教材教具の工夫が、以下の通り大変すばらしい。</p> <p>(1) 地軸が傾いていることを実感させる地球儀</p> <p>(2) カプセルを用いた南中高度の実験 お菓子で用いられる透明のふたを教具として使い、南中高度を見つけさせたこと</p> <p>(3) 視聴覚資料を用いた導入の工夫 オーストラリアのクリスマスの場面 「サンタクロースがサーフィンをしている写真」等</p> <p>(1) から (3) を踏まえて、生徒は、実験からわかることを説明した。発表する生徒、その発表に真剣に耳を傾ける村田教諭。</p> <p>机間指導の中で生徒とのあたたかい信頼関係ができており、改めて、授業の基盤づくりの大切さを実感した。(右：写真)</p>		

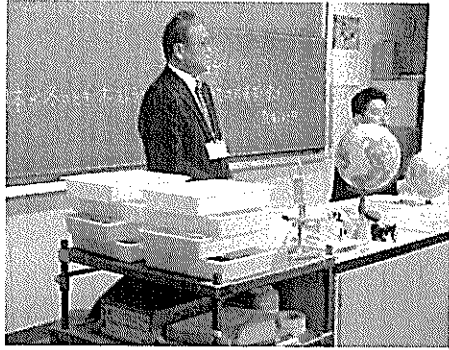
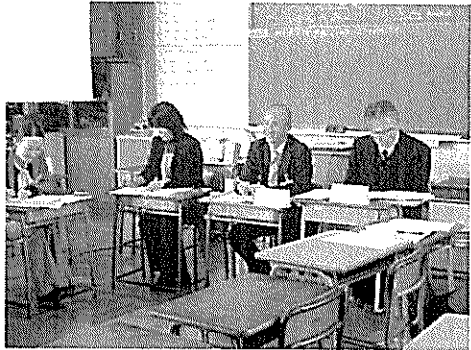
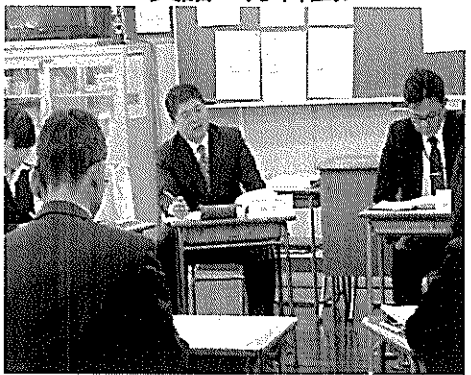


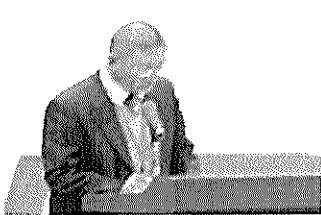


<教材の工夫：枠のない地球儀>



実施内容

2 分科会および全体会

実施内容	実施内容及び気付き	 <p style="text-align: center;">＜理科：分科会＞</p>	 <p style="text-align: center;">＜英語：分科会＞</p>
		 <p style="text-align: center;">＜国語：分科会＞</p>	 <p style="text-align: center;">＜数学：分科会＞</p>
		<p>本校教諭が司会を務め、四つの提案授業について研究協議を行った。中学校だけでなく、小学校の先生方も参加されたことが、とても意味あることだと思う。なぜなら、小学校の先生方に、中学校の生徒と授業の様子を見ていただく機会がほとんどないからである。</p> <p>小学校の先生方に中学校の生徒と授業の様子を見ていただき、感想や気づきをもらったことは、お互いの子ども理解につながる。</p> <p>4つの授業について、どの分科会でも「生徒が意欲的」という評価があった。具体的な実践を通して、研究主題に迫ることができた証である。</p>	

全体会				
実施内容	実施内容及び気付き	 <p style="text-align: center;">＜全体発表＞</p>	 <p style="text-align: center;">＜聞き入る会員＞</p>	 <p style="text-align: center;">＜分科会報告＞</p>
		<p>「何を目標しているのか、わかりやすい発表ですね。」という声を聞いた全体会だった。今後さらに、発表内容や分科会報告の仕方等の工夫が必要であろう。しかし、「授業と全体発表がリンクしていた」という感想の通り、「全体説明の考え方と具体的な4つの実践がつながっていた」「わかりやすい」と参観者が感じ取ってくれたことが、何より大きな成果であった。</p>		

3 授業者による授業の考察（理科：教諭 村田孝友）

<p>生徒の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球儀やペンライトを用いて、わかりやすく説明できた。 ・協力して実験ができて、楽しかった。 ・道具を用いて、結論が具体的に説明ができていた。 ・実際に作業をしながら学べたので、とてもよく理解できたし、他人への説明もしやすかった。 ・習ったことを使って調べていたので、説明に説得力があった。 ・もっとわかりやすく、説明文をまとめておけばよかった。 ・もっと、考察や結論を発表できればよかった。
<p>授業者による考察</p>	<p>生徒は宇宙の事象に関する興味関心は高い。しかし、小学6年時の月と太陽の学習以来、宇宙の事象に関する学習をしていない。また、生徒は発表する体験活動の経験値が低く、聞き手がわかりやすいように、手順よく発表することが苦手である。</p> <p>そこで、地球から観察することができる事象を、地球儀や透明半球を用いてモデルで考え、地球を俯瞰した視点から課題を解明していく授業を仕組んだ。</p> <p>教具をいろいろ活用しながら、学習を進めていった結果、空間認知力や理解力が上がったと、授業を進めていく中で実感できた。また、研究授業での生徒のてきぱきとした動きで、「学習の定着が見られる」と参観された先生方から評価をいただいた。</p> <p>しかし、説明する力を伸ばすための手立てや時間が不足していたと思う。生徒の感想からも、「実験内容や考察をまとめ、わかりやすい説明文を作成することができなかった」とあるように、表現力を計画的に、また、学校全体で組織的に伸ばしていくことが大きな課題である。また、説明する力と同時に、聞く力を育てる必要性も実感した。</p> <p>他には、生徒同士の発表会あったため、評価方法の検討が必要である。また、小中の壁、小中の連携も大事であるが、一方で、中学校の学年、教科の壁も大事なのではないかという指摘もあった。</p> <p>今回、この研究会のおかげで、自分の授業を多くの先生方に参観いただき、たくさんの成果と課題を得ることができた。私自身が一番学ばせていただいたように思う。</p>

授業だより～「風」～

1 授業づくり研修会について (理科部会 報告：平田中教諭 舩田健二)

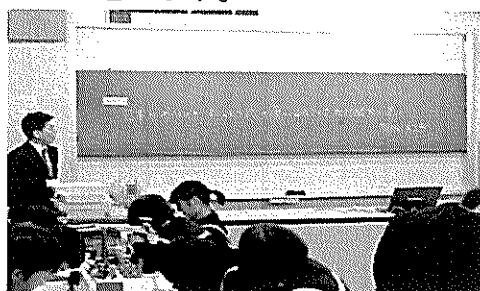
22日(金)に行われた理科の授業づくり研修会には、岩国市内の多くの理科教員が参加されました。

場所は第1理科室で行われました。対象生徒は3年2組です。(授業者：村田教諭)

以下、この授業を参観された先生方の声をあげてみたいと思います。

(1) 目的の明確さ

本授業を参観し、事後研修会での意見が多かったものの一つとして、目的の明確さがあげられました。右の写真にあるように、黒板には大きく本時の目的が書かれています。生徒はこの目的に向けて一直線に取り組むことができました。



<授業のねらいの明確化>

(2) 思考の活性化～ICTの活用～

授業の中では多くの場面でICT機器が活用されました。まず、授業の導入です。ここでは、生徒に興味を引かせるためのイラストに工夫が見られました。次に実験の説明。ひとつひとつ丁寧に図が現れ、説明も詳しく、生徒たちの理解を助けた。また、時間配分も常に表示してありました。生徒は50分の授業を見通しを立てて取り組むことができました。



<机間指導：生徒の考え方の把握>

(3) 机間指導の大切さ

本授業で最も多かった先生方の意見は、「生徒と教員の信頼関係がすばらしい」というものでした。生徒が村田教諭のことを信頼しているんだろうと言う場面が、行動や言動から感じられました。発表しやすい雰囲気、意見を出しやすい場づくりなど日頃から村田教諭が生徒と真剣に向き合っているからできたことです。大変参考になりました。



<グループ内での話し合い>

(4) 成果と今後の課題

指導助言者の伊藤校長先生からは、「生徒が意欲的に活動できる手だてがあり、大変工夫された授業である。今後も教材を考えていき、高等学校への学習につなげてほしい。」という言葉いただきました。また県教委の澁田指導主事さんからは、「小中連携に取り組んでいる学校だけあり、小学校での履修内容を把握した内容、生徒の実態に応じた教材であった。大変工夫があった。今後は説明する力だけでなく、人の意見を聞く力を養ってほしい。」など今後の研修に向けた貴重な示唆をいただきました。

平成25年度 「授業づくり研修会」の取組をとおした成果

岩国市立平田中学校

1 生徒アンケート結果（7月と12月に実施）

アンケート項目（授業に関するもの）	7月 （%）	12月 （%）	成果
1 忘れ物をしない	83	89	+6
2 学習する内容が理解できる	81	82	+1
3 進んで自分の意見を発表する	45	50	+5
4 問題は最後まであきらめずに答える	80	82	+2
5 よく考えて答えている	78	83	+5

2 考察

（1）成果

「進んで自分の意見を発表する」「よく考えて答えている」の数値の向上は、今回の授業づくりをとおして大きく伸びた数値である。平田中学校では、今回の「授業づくり研修会」をとおして、生徒の学習意欲を目指した授業づくりを目指した。特に以下の4つの場면을意識した授業づくりを行っている。

- ア 今日のねらいを明確にする場面づくり
- イ 生徒が自ら考えようとする場面づくり
- ウ 表現する場面づくり
- エ 今日の学習を振り返る場面づくり

特に、イ、ウについては、「考えたくなる発問や課題」、「一人学びの時間の保障」「ペアやグループでの話合いの設定」等を意図した成果である。

（2）今後の課題

今後は、さらに学習意欲を高め、確かな学力を育てるために、平田中モデルを柱にした授業改善をすすめたい。そして、「1、2、4、5」の4項目については90%、3の項目については80%の数値を目指したい。